BCS賞

2018年 第59回
BCS賞受賞作品紹介

すみだ北斎美術館

外観 北面より

選評

本施設は葛飾北斎が生まれ育った墨田区亀沢に北斎研究の拠点となる美術館を造り、北斎の浮世絵を世界に発信するというプロジェクトである。計画地は江戸東京博物館から東に三〇〇㍍、両国駅も近くアクセスしやすい立地で江戸情緒の感じられる街の公園の一角にある。二〇〇九年の公募型プロポーザルで選定され、設計では案の方向性を巡ってクライアントとの間で協議が繰り返され、着工まで五年を要した。

この建築の様々な特性はこの建築のボリュームの構成から生み出されている。小さなスケールの建築が密集する下町の町並みとスケールを合わせた四本のアルミニウムのボリュームが地面から生え、上空で揺らぎながら合体したような形をしている。

地上レベルでは四つのボリュームの間を通り抜けることが出来、四方からのアクセスが可能である。四つのボリュームには美術館のエントランス、美術館の搬出入室、講座室、図書室の四つの機能が割り当てられ、講座室と図書室はそれぞれが独立して街に開かれた施

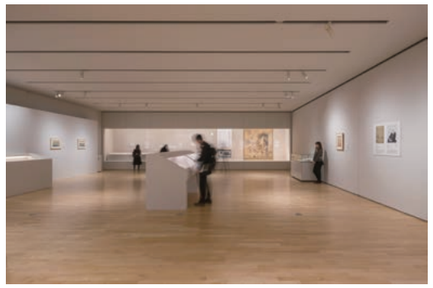
公園より北面エントランスを見る

BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。
この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。

< 2018年 第59回 BCS賞受賞作品 > 太田市美術館・図書館　高知県立高知城歴史博物館　コープ共済プラザ　新豊洲 Brillia ランニングスタジアム
すみだ北斎美術館　洗足学園音楽大学 Silvermountain＆Redcliff（e-cube）　空の森クリニック　高崎アリーナ　多治見市火葬場 華立やすらぎの杜
立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎学童保育所　デンソーグローバル研修所・保養所「AQUAWINGS」 日本無線先端技術センター
パナソニック スタジアム 吹田　羽田クロノゲート　益子町地域振興拠点施設「道の駅ましこ」
［特別賞］名駅一丁目1番計画（JRゲートタワー、JPタワー名古屋）

1階エントランスホール 受付からミュージアムショップを見る

1階外部通路 右手は講座室



4階企画展示室

設となっている。講座室では講演会やワークショップを開催したり、区民への貸し出しもされ街の活性化に寄与している。地上レベルで内部に入るとガラスを通して隣接するボリュームの様子が通り抜け通路越しに見え、まるで下町の路地空間に入り込んだような感覚を覚える。

二階レベルから四つのボリュームは一体化するが、各ボリューム間の楔形のスの痕跡はボリューム間の楔形のスリットとして残り、えぐれた部分はガラスの開口部となり内部と外部の間に視覚的な連続性を生み出している。二階のスリットのガラス部分は管理事務室の窓となっているが、運営者によってカーテンで覆われていたのが残念であった。今後、運営者の建築の特質に対する理解が進むことを期待したい。三・四階のスリットのガラス部分は展示室のホワイエや展望ラウンジの開口部となっており周囲の町並みやスカイツリーを望むことができる。

一階では独立している四つのボリュームは二階で一体化し楔形スリットとなり上部に行くに従い消えていくが、屋上からは逆方向の楔形スリットにより四つのボリュームが独立して見えるよう構成されている。外皮のアルミニウム板は街の景観を映し出すため、反射率の高い特殊合金製を磨いたもので、面をずらした四つのボリュームがそれぞれに街の景色を映し出し、揺らぎのある独特の景観を創り出している。外壁を構成するアルミニウム板は対面する街の居住環境などの条件に合わせて表面の反射率をコントロールするなど、外観の見え方だけでなくプライバシーなどにも配慮して決定された。

内外ともに複雑な形状が連続する建築の施工については、BIMを各種製作図まで連携させることで精度の高い施工を可能にしている。各種モックアップや輝度の異なるアルミニウム板を製作し繰り返し確認することで、設計者の感性に合ったイメージを実現した。

街のスケール感に対する新しい解を示した建築として評価したい。

[選考委員]
後藤春彦・能勢修治・栗山茂樹

建築主より

地域へ、世界へと北斎に関する情報を発信し、成長し続ける美術館

墨田区長
山本 亨
Toru Yamamoto

このたびは、栄えあるBCS賞を賜り、心より御礼申し上げます。

世界的絵師として名高い葛飾北斎は、本所割下水（現在の墨田区亀沢）付近に生まれ、すみだの地から、優れた作品を数多く世に送り出しました。墨田区では、郷土の偉大な芸術家を区民の誇りとして、永く顕彰するとともに、新たな文化創造の拠点として2016年に「すみだ北斎美術館」を開設しました。

妹島和世氏の設計による建物は、外壁に周囲の風景が柔らかく映り込み、隣接する公園や歩道など、どこからでもアプローチできる斬新なデザインであり、新たな画法を積極的に採り入れた北斎の名作展示にふさわしい建築物です。

東京2020オリンピック・パラリンピックを来年に控え、国内外から多くのお客様の来館も見込まれる中、北斎の創作姿勢にならい、地域へ、世界へ「成長し続ける美術館」として、更なる飛躍を目指します。

設計者より

周りの環境と関係し合う美術館

ⓒAiko Suzuki

株式会社妹島和世建築設計事務所
代表取締役
妹島和世
Kazuyo Sejima

敷地の周りには様々な用途とボリュームの建物が密集しており、全く新しい街区が広がっているようでありながら、何か遠く北斎が生きていた時間まで続く雰囲気も併せ持つ地域であると感じました。周りのスケールに溶け込ませようとしたこと、北斎美術館であり、同時に地域の住民のための場所としても使われること、展示室を完全に外光から閉じることなどから、複数のボリュームがついたり離れたりして、壁で囲われた建物でありながら、周りの環境に関係を持てるような作り方を考えました。また、北斎の絵の特徴として、様々なパースの重ね合わせが挙げられます。外壁の反射するアルミパネルは、色々な状況に応じて、斜めの壁にほんの少し現実と異なる風景或いは空気感を浮かび上がらせます。過去から未来に向けて、北斎のイメージをつなぎ続ける美術館であって欲しいと思います。

施工者より

想いを一つにし、難度の高い作品を建設

株式会社大林組 横浜支店
工事事務所長
（元：東京本店
すみだ北斎美術館JV工事
事務所 所長）
佐野光博
Mitsuhiro Sano

墨田区、妹島和世氏をはじめとする「すみだ北斎美術館」建設にかかわる皆様のこのプロジェクトに対する「熱い想い」を共有し、我々と協力会社は、想いを一つにして工事を進めました。この工事は、BIMを協力会社と積極的に活用し合い難解な納まりと形を追求し、著名な建築家の感性とこだわりを具現化していきました。

また建物を施工する上では、一つの作品を造り上げるという「熱い想い」で既成の考えにとらわれず一つひとつを丁寧に緻密に造り込みました。振り返ると恵まれた工事でありました。施工は大変ではありましたが、優秀なスタッフ、協力会社と共にものづくりを楽しみながら、設計者の意図する高難度の作品を造り上げる事ができました。

最後に、「国際観光都市すみだ」を掲げる墨田区にとって、この美術館が観光や産業へも寄与する地域活性化の拠点として活躍することを願います。

計画概要

建築主：墨田区
設計者：㈱妹島和世建築設計事務所
㈱佐々木睦朗構造計画研究所
㈱森村設計
施工者：㈱大林組
東武谷内田建設㈱
所在地：東京都墨田区亀沢2-7-2
竣工日：2016年4月28日
敷地面積：1,254㎡
建築面積：699㎡
延床面積：3,278㎡
階数：地上4階、地下1階
構造：鉄筋コンクリート造、鉄骨造